

# ふんいきりん。



なかがわ しょうたろう

**中川 章太郎さん**

社会福祉法人 芳香会  
青嵐荘特別養護老人ホーム 介護職



結城市にある青嵐荘特別養護老人ホームは、身体や心に障害があるために普段から介護を必要とし、自宅において介護を受けることが難しい高齢者やその家族に安心と安全を提供する施設です。中川章太郎さんは、勤務して今年で12年目になります。新潟経営大学を卒業後、1年間バックパッカーとして世界中を旅し、帰国後は6年間浅草で人力車の車夫として働いていました。結婚を機に地元茨城での転職を考え、福祉の仕事にたどり着きました。「介護の仕事と人力車の仕事は、人と接すること、人を喜ばせることが共通しています」と中川さん。小学生の頃から大学卒業までサッカーを続け、体を動かす仕事を望んでいたことから福祉の仕事に着目し、福祉の仕事の説明会に参加しました。その時に最初に話を聞いたのが、現在の職場で、担当者と話をしているうちに「やってみよう」と思ったとのこと。

## 御利用者の希望を叶えられた時、やりがいを感じる

現在の職種は介護職で、御利用者の身体介護を主に担当しています。「排泄介助やおむつ交換は、自分には無理かと思っていましたが、意外と早く慣れました。全く別の世界から介護の現場に入ったので、変な先入観がなかったのも良かったかもしれません」。12年間で介護福祉士、社会福祉士、ケアマネージャーの資格を取得し、着実にスキルアップしている中川さんですが、「現場がやはり好き」ということです。やりがいを感じるのは、「御利用者の希望を叶えられた時です。寝たきりで入居した方が、『自分でトイレに行きたい』と言った希望を、どうすれば実現できるのか、看護師や理学療法士と協力してリハビリを進め、最終的にト

# 福祉の仕事は、人を喜ばせる仕事。



イレに行けた時には、良かったなと思います。自宅にお線香をあげに行きたいという希望を持つ人がいれば、どうすればいいのか科学的根拠を持って考え、願いを叶えることがやりがいです。日常のケアだけでなく、御利用者の希望を叶えるために頑張ることが自分たちのやりがいになり、それがお年寄りの生きがいにもなっています」と話します。

## 福祉と人力車をミックスさせて可能性を広げたい



中川さんには、印象に残る御利用者がいます。「施設のお祭りで人力車を出した時に、100歳の方がひ孫さんと一緒に乗って、『一生のいい思い出になった』と言ってくれたのです。少しして亡くなりましたが、御家族からも『あの時の写真は一生の思い出になりました』と言われました。好きな人力車と介護をミックスできたので、とても印象に残っています」とのこと。自分の人力車を持つ中川さんの今後の目標は、施設に人力車部門を立ち上げること。「レクリエーションや、施設のイベントの際に活用し、地域の人も参加してくれることにより、沢山の交流が生まれていきます。自分の中で人力車の存在は大きいので、人力車を福祉の仕事と関わらせていきたいと考えています」と抱負を語ります。

## 福祉の仕事は、前向きな考えを持つ人がいい

福祉の仕事に向いているのはどのような人かとたずねると、「どの仕事でもそうだと思うのですが、前向きな考えを持っている人が絶対にいいです。見た目は明るくても暗くてもいいですが、気持ちが前向きな人。相手は人間なので、いろいろな要望がありますが、それに向きあえる人がいい。ご



飯を食べていてこぼしてしまったら、『なんでこぼしちゃったの』と言うより、『ここまでできるようになったんだね』という発想を持つことが大切です。どんな人でも、福祉の仕事に就いて前向きになってくれればいいですね。」と答えてくれました。

## まずは、踏み出せば道ができます

福祉の仕事に就くか悩んでいる人へのメッセージは、「福祉はよくわからない世界だと思っているでしょうが、怖がることはありません。私はアントニオ猪木さんの引退スピーチが大好きで、迷った時にはそれを思い出します。迷ったら行ったほうがいい、踏み出したら道ができる、という様な内容です。だから、だめだったらやめてもいいから、まずはやってみよう」とのことです。全く違う世界から福祉の道に進み、走り続けるきりり人です。

